



昭和21年3月卒業生への65年後の卒業証書授与式が9月28日に本校で行われた。出席した11氏が豊口祐一同窓会長と高橋貢校長を囲んでの記念撮影（本校体育館前で）

秋高 同窓会 だより



「本紙90号発行記念特集」

7～10面 高橋昌一氏、町田 睿氏
4氏特別寄稿 西木正明氏、橋本五郎氏

(2面) ポラリス 金谷 さおり氏

(6面) 恩師訪問 武田 武志先生

(15面) 深秋随想 畑 澤 聖 悟氏

(16面) 宇治山田高校との野球OB戦

(18面) 65年後の卒業式

学校創立	1873年(明治6年)9月1日
平成23年	創立138年
同窓会員数	37,005名(平成23年9月現在)
住所判明者	20,966名
在籍生徒数	937名(男子549名 女子390名) (平成23年9月現在)

秋田出身者の絆を深めたいとウェブサイトを「あきたのかお」(<http://www.akita-kaeo.com>)を立ち上げたのは昨年六月のことです。首都圏を中心に活躍されている秋田出身者のインタビューを紹介しながら、故郷を介してつながるタテヨコのネットワークを「Weak Ties」として構築したいと考えてきました。

ポラリス Polaris

「Weak Ties」とは米国の社会学者グラノヴェッターが提唱した転職についての考え方、自分とは異なる情報を持つている人とのゆるやかなつながりが、転職を成功させる条件として重要であるというものです。しかし転職に限らず、生きることにそのものに対して「Weak Ties」の重要性は増しているように感じます。

ひとくちに「情報」と言いますが、「情」と「報」ではその文字の意味するところが実は大きく異なっています。「報」とは、「その気になれば、誰でも、どこからでも、いつでも入手できる公開された定量的な情報のこと」であり、一方「情」とは「face to face communication」から得られ

るニュースや裏事情など、人が介在することによってはじめて発見され、入手可能になる定性的な情報です。

何かの問題解決を図るときには、「報」だけではなく「情」の部分がより重要になります。「Weak Ties」の重要性は、問題解決の心理的な拠りどころとなる情の大切さを物語っているのです。

大学進学と同時に秋田を離れ、そのまま東京で就職する道を選択した私は、都会生活



「秋田」と「福祉」に希望を見つけて

金 谷 さおり (平成10年生)

・LLP「秋田の顔」プロジェクト代表
・知的障害者更正施設職員

のなかで同郷の方々、とりわけ同窓生の先輩たちには大変お世話になり、「Weak Ties」の大切さを実感してきました。このつながりを、高校の卒を超えより多くの秋田出身者で共有し合うための場所として「あきたのかお」を立ち上げました。

現在は毎月十日に更新されるインタビューのほか、話題の秋田情報やイベントのお知らせ、秋田にゆかりのある

方々からの寄稿、連載の掲載も行っています。ようやくたくさんの方々を知っていただけのようになり、一カ月あたりのアクセス数は七万件を超えるようになりました。最近では国内のみならず海外にいらっしゃる秋田出身の方からも「故郷の情報をありがたう」とメールをいただいたり、記事に取り上げた食品や工芸品などの名産品を実際に多くの方が手にとってコメントをくださったり、お知らせした

イベントに足を運んでくださる方が増えてきたりと、活発な動きが生じていることに手ごたえも感じています。また、活動を通して出会った若手世代と「あきた希望計画」と銘打った雇用創出プロジェクトを立ち上げるなど、活動の幅も広がってきました。

日々、お伝えしたい素晴らしい秋田が、愛する秋田が、いつも私の全身から溢れ出し、そんな感覚のなかで生きてい

ます。しかしながら、本業を持ちながらの社会活動であり、信する時間もとれず歯がゆく思うことも少なくはありません。私の本業は「福祉」で、普段は東京都内にある知的障害者更生施設で勤務をしています。重度、最重度の知的障害者と向き合う毎日、人の命の尊厳や、人の心の美しさ、障害のある人もない人も共にフラットな感覚で自然体で生きることを大切にするなどを学ぶことができる、人間としての成長の日々でもあります。そしてこの福祉の視点こそが、自殺率、婚姻率、出生率、人口減少率が軒並全国ワースト一位である秋田県において、とても大切であり求められているものであると考えます。

いずれば福祉を通じて、秋田に貢献できる人間となり、ふるさとへ帰りたい。「秋田」と「福祉」に生きると決意した私にとり、本業も社会活動としての「あきたのかお」も、どちらも欠かすことのできない大切なライフワークです。支えてくださる方々にたくさんの「ありがとう」を伝え続けていくためにも、今後も地道な活動を続けてまいります。

天上天下

本紙が九〇号を迎えた。創刊は、蓼沼銀次郎会長当時の昭和五〇年である。全六ページから成る第一面のトップに、「機関紙発行を期に高まる連帯感」と題した蓼沼会長の発刊の辞が載っている。その後次第に頁数が増し、紙面の大きさにも変化があつて、一部カラーも取り入れた現在のスタイルになったのは、平成一八年の第七八号からであった。

▼「九〇」は「九」と「〇」の組合わせである。中国では、奇数は陽のめでたい数字で、偶数はその逆である。「九」は奇数の中でも最大の数字で、それが二つ重なる九月九日は「重陽の節句」として祝われている。▼一方、「〇」という概念はインドで確立されたものだという。ゼロの発見によって、人類の数学的認識力は飛躍的に進歩したとも指摘されている。▼近年、アメリカの影響が低下が目につくようになり、反比例する形で中国やインドが躍進ぶりを見せている、今後はこの二カ国が世界の主役に躍り出ていくのであろうか。いずれにせよ、本紙は百号という節目に向かってさらなる充実発展を期していくのみである。

震災の影響、同窓会員にも

23年度
通常総会
一般会計予算案を可決

秋田高校同窓会の平成二十三年通常総会は六月二十五日、秋田市山王のシャインプラザ平安園秋田に県内外からあわせて百十四人の会員を集めて開かれた。平成二十二年年度の会計決算を承認するとともに、各常置委員会の平成二十三年事業計画とそれらを盛り込んだ一般会計予算案を原案どおり可決承認した。

総会冒頭、東日本大震災の犠牲者との一年間に亡くなった物故会員に深い哀悼の意を込めて出席者全員で黙とうを捧げた。校歌斉唱に続いてあいさつに立った豊口会長は次のように述べた。

「このたびの大震災では同窓会員を含む大変多くの方々が犠牲になり、また今なお不自由な生活を余儀なくされている。心から犠牲者のご冥福をお祈りするとともに被災者にはお見舞いを申し上げます。その震災の影響もあってか今年度の会費納入状況はあまりはかばかしくない。今後とも同窓会の財政基盤確立に向けて努力したい」

豊口会長はこう述べるとともに二年後に迫った母校創立百四十周年に備えて菊谷一前校長（S44年卒）を同窓会参与に迎えたと報告した。

豊口会長はさらに続けて、在京秋田県高校同窓会連合会（秋高連）のような親睦団体を秋田市内の高校同窓会で結成して交流を深めることができないう話ほか他校から持ち上がり、今年の九月をめどに豊口会長を代表世話人とする「仮称・秋田市内高校同窓会長連絡協議会」を発足させる計画があることを明らかにした。

続いて今春湯沢高校から赴任した高橋貢校長（S47年卒）が学校の近況を報告した。それによると、今年も受験対策の一環として東大と東北大にそれぞれ五十人から百人規模の生徒が訪問体験をする。また少子化の波は母校も直撃しており、来春からさらに一学級減の七クラス（一学年二百七十五人）になるという。一方、終戦の混乱から修業

年限を一年残して卒業のやむなきに至った加藤日出男若い根っ子の会会長ら昭和二十一年卒の同窓生に対して、学校は九月二十八日の前期終業式の席上、全校生徒の前で六十五年ぶりに「幻の卒業証書」を授与する粋な計らいを決めたと述べ、出席者の共感を呼んだ。

続いて議事に移り、始めに企画・財政・名簿・広報・ホームページの各常置委員会から平成二十二年年度の活動報告があり、あわせて二十三年度の事業計画も提案され、いずれも意義なく原案どおり承認された。

この後平成二十二年年度の決算を議題とし、一般会計のほか基金会計、名簿会計、退職金積立会計、資料館整備積立会計の四特別会計を含む各決算報告書を一括審議した。その結果、収支ともに予算の執行は適正と認める、とする監査報告を満場の拍手で可決承認した。

総会はさらに平成二十三年度一般会計予算案と財務規定案を原案どおり可決した。最後に任期満了に伴う役員を選任について議場に諮った結果、全役員の再任、高橋校長の新任を満場一致で承認した。新体制は次のとおり。

【会長】 豊口祐一（S34）
【副会長】 山谷浩二（S20(4)）

高橋智徳（S40）
藤盛節子（S43）
三浦廣巳（S44）

高橋 貢（S47）
以上再任
校長・新任

【監事】 久米田和太郎（S38）

鎌田 壽（S42）
高橋正毅（S45）

閉会に引き続きグローバルウォータ・ジャパン代表の吉村和就氏（S42年卒）が「世界と日本の水問題を考える」と題して記念講演を行った。

「だより90号」は特別号とし増頁

第二回運営委員会

平成二十三年度第二回運営委員会は、九月二十六日(月)秋田市秋田キャッスルホテルにおいて開催された。出席者は

会長、副会長、監事、参与、各委員会委員長、事務局の計十五名であった。

会長・校長の挨拶に続いて次の案件が審議された。

1 平成二十三年度後期事業計画・行事予定(案)等について

2 各委員会報告

・ 企画委員会：会則・企画委員会規定等について。
企画委員会の事業計画・当番年次・委員長・副委員長等について

・ 財政委員会：決算中間報告・今後の財政について
・ 名簿委員会：会員総数等

名簿の状況について・名簿会計中間報告・決算・会員名簿四〇号刊行について・名簿補足率の向上について

・ 広報委員会：八十九号反省・「だより九十号」は特別号として増頁で発行。
・ H P 委員会：今までの H P 維持の流れについて・今後の展開について

3 平成二十二年会計中間報告

4 母校創立百四十周年について

4の概略は次の通り。
百五十周年がメインとなるので、百四十周年は大規模にしない。百五十周年につながるための記録は残しておく必要がある、会報、式典、祝賀会、記念誌は計画したい。
今後、常置委員会、各支部の意見を聞く必要があり、平成二十四年四月前に臨時運営委員会を開催したい。

秋高140周年

記念誌発行の準備へ

「箱物」寄贈は見送る

秋田高校同窓会の平成二十三年度第二回理事会是、十月七日、秋田市のイヤタカで八十五名が出席して開かれた。

豊口祐一会長が、挨拶の中で主に述べたのは、平成二十五年秋を迎える秋田高校の創立百四十周年事業についてであった。

第一に寄付金を募ることに ついては、趣旨、目標額とも まだ定まっていない。

十周年ごとに出版している 記念誌の発行については、高 島清子広報委員長を中心に、 編集委員を任命、学校側とタ イアップして早急に準備に取 りかかりたい。

事業としては、これまで箱 物を建てて母校に寄贈してい るが、学校側から特別の要望 もなかったため、今回は見送 る。それに代わる事業として、 何をやらせようか今後委員 の意見を聞きながら進めたい。

前回、百三十周年には、先 蹤録を発行しているが、収録 に、人選や取材などに相当な 時間を要すると聞いたので、 続編の発行はしない。

続いて高橋貢校長は「九月 二十八日に昭和二十一年三月 卒業生への証書授与式を行っ た。在校生に、昭和の食糧難 の時代に希望を失わずに努力 された方々の人生に触れる機 会をいただき、感謝している。 今年の三年生は三百十人。そ

のうちの三百八人が国公立のセ ンター試験に受験した。二年 生は十月末が修学旅行。理数 科一クラスは今年初めて韓国 に行き、ソウル高校と授業な どを通して交流する」と近況 を報告した。

事務局長からは、本年度事 業計画、行事予定。企画、財 政、名簿、広報、ホームペー ジの各委員会からもそれぞれ 報告があった。

最後に平成二十三年度会計 の中間報告が行われた。

Table with 5 columns: Item, 22年度予算額, 22年度決算額, 増減, 摘要. Rows include 1.入会金, 2.会費, 3.協賛広告費, 4.基金運用費, 5.寄付金, 6.会議収入, 7.雑収入, A.当期収入合計, B.収入合計.

Table with 5 columns: Item, 22年度予算額, 22年度決算額, 増減, 摘要. Rows include 1.事業費, 2.会議費, 3.事務費, 4.基金, 5.雑費, 6.退職金積立, 7.資料館整備積立, 8.予備費, C.当期支出合計, A-C当期収入差額, B-C次期繰越.

Table with 5 columns: Item, 22年度予算額, 23年度予算額, 増減, 摘要(内容説明含む). Rows include 1.入会金, 2.会費, 3.協賛広告費, 4.会議収入, 5.雑収入, 6.繰越金, 基金運用収入・寄付金, 収入合計.

Table with 5 columns: Item, 22年度予算額, 23年度予算額, 増減, 摘要. Rows include 1.事業費, 2.会議費, 3.事務費, 4.基金, 5.雑費, 6.退職金積立, 7.資料館整備積立, 8.予備費, 9.繰越金, 支出合計.

平成22年度 一般会計決算報告書(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

平成23年度 一般会計予算(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

講演要旨

1. 世界は深刻な水不足に直面

日本に暮らしていると実感がないが、世界では深刻な水不足に直面している。人口増加と経済発展で水不足が加速度的に進行しており、国連の予想では、世界人口百億人(二〇五〇年)のうち四十億人が水ストレス(十分に使用できない状態)を受けるだろうと警告している。一九六一年ソビエトのガガーリン少佐が、人類で初めて宇宙空間から地球を見たときに「地球は青かった」と有名な言葉を残し、それ以来人々は、地球は水の惑星と思い込んだが、それは大きな間違いであった。地球上にある水、海水が97・5%、淡水が2・5%であるが、淡水の八割は氷河、氷山で固定され、我々が直接使える淡水資源は水資源の0・01%しかないのだ。

2. 人口増加と水資源

過去百年間の人口増加と水需要を比較すると、人口増加率の二倍が水需要である。

つまり人口が増加すると二倍の水需要が発生する。現在でも不足している水資源だが、二〇五〇年には、水が絶対的に不足する。特に人口増加と経済発展が著しいアジア諸国

では、水不足が深刻となる。現在世界の水資源の約五割をアジア諸国が消費しているが、二〇二五年には七割以上を消費するものとみられている。経済発展の他に、生活文化の向上に従い、水の需要が倍加する、入浴回数増加、水洗トイレの普及、庭への散水などである。

世界と日本の水問題を考える

グローバルウォータ・ジャパン代表
吉村和就 (昭和42年卒)
(国連テクニカルアドバイザー、麻布大学客員教授)



3. 世界で頻発する水争い

人間に必ず必要なものが不足すると、そこに紛争とビジネスが生ずるのは当然のことである。世界には約二百七十の国際河川があり、その流域では水争いが頻発している。ヨルダン川、ナイル川、チグリス・ユーフラテス河、メコン河など枚挙にいとまがない。

4. 大国の水問題

領土が広い大国でも水不足に直面している。米国、中国、豪州などが挙げられる。世界の穀物市場を支えている米国の水不足は深刻であり、オガララ滞水層(日本の面積の

千八百ミリ)であり、長年に渡り地下に貯留された化石水を、巨大なポンプでくみ上げ、大型スプリンクラーで灌漑し農作物を栽培し、その農産物を海外に輸出して外貨を稼いでいるのが農業国・米国の本当の姿なのである。つまり水資源問題が、国家財政と直結しており、オバマ政権は、水

「ライバルの語源はリバー」であり、人間の最初の争いは川の水をめぐる争いであった。

隣国の中国の水問題は危機的な状況である。今年二月に放送されたNHK総合のクロージングアップ現代「中国の水ビジネスをつかめ」で筆者はスタジオゲストとしてコメントを述べたが、中国は世界人口の約20%を占めるが、その水資源は世界の5%しかない。そもそも水資源が不足の上に、急激なる経済発展により水質汚濁が加速度的に進行し、中国7大河川の八割以上が飲料不可であり、地下水も農業や重金属汚染により浅層地下水は既に飲料不可となっている。断流(川の水が海まで到達しないで消える)も頻発している。二〇〇九年に筆者が上梓した「水ビジネス110兆円水市場の攻防」(角川書店発行)で中国の水問題を取り上げ「黄河文明で繁栄した中国は、水で滅亡する」と書いたところ、関係筋から「中国の悪口を書くな、東京湾に浮かぶぞ」と脅かされたが、今では中国の水不足、水質汚染の深刻さは世界中の人々が知るところになり、筆者はまだ、東京湾に浮かんでいない。(笑い)

5. 水は国家の安全保障

世界各国は水不足に直面し、

SOPHY JIKODO
いいものをいつまでも…

会長 藤井 厚生 (昭和32年卒)
社長 藤井 政徳 (平成元年卒)

SHOP: 秋田市大町1-2-7 サンパティオ大町
TEL 018(888)3800 FAX 018(866)8812
www.jikodo.com

杉山 医院

杉山 好廣 (昭和32年卒)

秋田市土崎港中央4丁目8-10
TEL 018-845-0678
FAX 018-845-6824

雪のほし

株式会社 齋彌酒造店
代表取締役会長 齋藤 純四郎 (昭和32年卒)

http://yukinobosha.jp/

その水資源確保に躍起となっているが、日本には水処理に關して世界に通じる多くの技術を有している、その技術を世界に広げるべく、筆者は国際会議や、多くのマスコミで、水は国家の安全保障であり、国を挙げて取り組むべき課題と主張している。

恩師訪問 Vol.17

武田 武志 先生

母校で勤務された方を訪問する「恩師訪問」。第十七回目の今回は社会科教師の武田（滝沢）武志先生。今回広報委員の佐々木寛子（S58年卒）、高橋善博（S58年卒）が取材依頼したところ、武田先生自ら、とても素敵な随想文を書いて下さいました。武田先生本当に本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

定年退職して十一年目。現在、秋田県議会事務局の非常勤職員として、秋田県議会史第六巻の編纂作業に携わっている。非常勤だが、週三十時間勤務なので、毎日県庁に向いている。

私の教員生活は秋高で始まった。昭和三十八年〜四十五年までの七年間だが、新卒だったから、まさに修業の時代で、貴重な経験をした七年間であった。

昭和三十八年頃は、丁度高度経済成長期にさしかかっていた。大卒者には、給料の安い公務員・教員は余り人気になかった時期だが、学校ではベビーブーム世代が高校に入ってくる頃だったので、私のような「デモシカ」教師も必要であったようだ。

担当教科は社会科・日本史なので、毎年三年生を教えることになった。一年目には、その三年生のある生徒から、

新米教師時代

「ノートを読んでいるだけの授業ではないか」という厳しい批判を受けた時もある。歴史の授業は、原始・古代から現代まで、自分なりの言葉で、歴史の変動や必然性を語る必要



現在勤務の県議会事務局にて

要がある。が、新米教師には、きちんとした歴史観などがない。全体像をつかめていない。自分のものになっていない。その辺の未熟さ・不勉強さは、秋高生にはすぐ分かる。

生徒に批判されるような授業であれば、教師の立場はなない。生徒に鍛えられ、育てられた、そんな思いを強くする秋高時代だった。教育論など意識することなく、生徒中心に、自主性を尊重することが教育の基本ということも身を持って学んだ。

試験は、課題を予め示し、記述試験に切り替えた。大学のレポート形式を参考にした。大学生が書くような答案を出した生徒もいた。さすが秋高と感入った。

授業の関係から、学級担任は当然三年のクラスを持つことになり、二年目から、五年連続して、三年の正担任をつとめた。このような例は、教科指導中心の秋高でなければ、経験できなかったのではないかと。

お陰で、当時の卒業学年の同期会などがあれば、声がか

かる。教師冥利に尽きると思うのは、このような時である。その秋高時代最後の卒業生達も、来年三月に定年退職を迎える。感無量である。

教科外の部活動などでは、いつも複数の部・委員会の顧問を仰せつかった。バレー部、ボート部、陸上部、社会部、ワングル同好会、応援委員会などの顧問を経験した。ある年は、運動部だけで三部と応援委員会ということもあった。何のことはない、合宿や遠征要員として頼まれたのである。それだけ先輩の教員が多かったということなのである。

しかし、このお陰で、インターハイなど全国大会を経験した。ボートや陸上競技では、インターハイに行ったし、野球の甲子園大会やラグビーの花園大会には、応援団引率の一員として、いずれも準決勝まで応援した。七年間でこれだけの経験をした教員は、そんなにいないのではないかと自負している。

秋高の後、秋田北高（十三年）、本荘高（二三年）、新屋高（九年）、秋田中央高・定（二年）、秋田南高（二年）、男鹿高（三年）と転動して、平成十三年三月に定年退職した。この間、北高時代の昭和五十年には、自宅の空き地清掃

作業中に、左目を裂傷し、失明する事故に遇った。東大で手術後、コンタクトレンズとメガネを装用し、通常の生活に戻れるようになっていた。もう片方の右眼はもととも視力が弱かったから、あの手術が成功していなければ、正常な視力を失って、三十四歳で教職は辞めていたに違いない。わが人生で最大のピンチであった。

目の怪我以後、生活は眼の保養中心に変わった。病院通いも日常生活の中に組み込まれ、また、出鱈目な生活習慣も幾分修正された。そうした生活の変化の中で、眼の怪我がなければ、教職は全うできなかったかもしれないと思うことすらある。

年齢とともに、新たな病も加わった。幸いなことに、未だ致命的な病魔の宣告はない。最近では、退職後二年目に、左肘にできたこぶが、手術後に悪性のもとの判明し、高額医療の世話にもなった。

眼の怪我にしても、最近の病魔にしても、決定的ダメージにはなっていない。その一歩手前で、神様が手を差し伸べてくれているかも知れぬなどと、勝手に解釈している今日この頃である。

八十二歳になった元生徒 ―感激と追憶を―

高橋 昌一 (昭和21年卒)

平成二十三年九月二十八日(水)、この日は早朝から雲一つない透きとおるような青空、気温二十五・九度の素晴らしい秋晴れのもと全校生徒九百三十八人と教職員が見守る中、紅白の幕が張られた体育館で「秋田県立秋田中学校 昭和二十一年三月修了生の卒業式を挙行致します。」の開式の辞で式が始まりました。

高橋貢校長から壇上で、われわれ十一人一人一人に六十五年待った卒業証書を授与されました。高橋校長は「困難な時代に希望を失わず生きた先輩の姿に接することは、今の生徒にとって大きな意味を持つ。生徒たちには、生きる意味を真剣に考えてほしい」と式辞を述べられました。私は卒業生を代表し「卒業証書授与式を行っていただき、誠に感無量でありますとともに、喜びも一人であります。戦時中の苦難の中学生生活でも、友情の絆を育み、巣立たせていただきました」と謝辞を述べました。八十代になった元生徒が深い喜びをかみしめた一駒でした。さて、思いおこせば、六十九年前の昭和十七年四月六日に入学を許可された二百八十二名は、大東亜戦争の敗戦により昭和二十一年三月と昭和二十二年三月とに別れて卒業しました。けれども昭和二十一年三月学窓を巣立った百二十三名は、正式な卒業式を挙げられず、卒業証書をいただくことができませんでした。

同窓会だより90号特集

旧制秋田県立秋田中学校の全課程修了の私達の在学四年間を振り返ってみますと、入学早々の昭和十七年七月、五城目町までの一泊の鍛錬行軍旅行、二年次では北秋田郡下川沿村(現在の合併後の大館市の一区域)の農家の田植作業の手伝い、秋田市追分での軍用機の燃料となる松根油の採取作業、



仙北郡雲沢村(現在仙北市角館町雲沢)へ松木内川の洪水による田畑に流入した岩石の除去作業、又夏休二週間返上して秋田市に駐屯する歩兵第十七聯隊へ納入する山菜採りで仙北郡松木内村(現在仙北市西木町松木内)の上松木内小学校に泊まり込みの奉仕作業など、そして三学年からは、秋田市土崎の鉄道省新潟鉄道局土崎工機部(現在JR総合車輛センター)へ勤労動員され、旧制中学校の教育活動はほとんど停止の状態でした。その後、昭和二十年八月十五日ポツダム宣言受諾により大東亜戦争が敗戦、勤労動員令が解除となり、手形校舎で授業が再開されたものの、一ヵ月後の昭和二十年九月十九日に米軍の進駐により校舎は接収されました。われわれは寺内の帝国石油株式会社の鋳手養成所(通称石油学校)を借用し、仮校舎として授業を続けただけではありませんが、石油(原油)増産による社員の急増に伴い、技術養成・社内訓練のため同養成所を出ざるを得なくなり、昭和二十一年二月十二日から、一年生は市内の中通小学校・二年生は築山小学校・三年生は牛島小学校・われわれ四年生は明德小学校と分散授業となり、明德小学校で秋田中学校の四年修了又は四年卒業となったのであります。以上の経過からみれば、四年間の中学校生活は勉強半分、勤労奉仕勤労動員が半分だったと思われまます。然しながら、六十九年前の昭和十七年四月に精学の志をもつて秋田中学校に入學し、ほとんどの期間を戦時中に過ごしましたが、そういう状況の中でも、四年間、教職員の厳しくも愛情ある温かいご薫陶をいただき、友情の絆を育み巣立たせていただきましたことを幸せに感じております。

このことにつきましては、卒業証書授与式の夕刻にNHK・ABS・AKT・AABの各社がTV放映。翌二十九日には秋田魁新報・読売新聞・朝日新聞・毎日新聞が大きく掲載、市井の大きな話題となりました。最後にになりましたが、秋田高校の高橋貢校長のご高配に深く感謝申し上げますとともに村上幸義事務長をはじめ学校関係者、並びに豊口祐一同窓会会長と寺田和夫事務局長のご協力に厚くお礼申し上げます。昭和二十一年三月の卒業生を代表いたしまして卒業式の所感と六十有余年前の追憶を述べさせていただきます。

酒は天下の

太平山

秋田味噌しょうゆ

小玉醸造株式会社
代表取締役社長
小玉真一郎
(昭和49年卒)

湯上市飯田川飯塚字飯塚34-1
TEL 018(877)2100
FAX 018(877)2104

秋田市民市場の
お魚うまいもの店

川(有)川村鮮魚店

代表取締役
川村 忠
(昭和41年卒)

〒010-0001
秋田県秋田市中通4丁目7番35号
TEL・FAX 018-833-0720

確かな技術と感性撮って選べる記念写真

造酒写真館

造酒興一
(昭和36年卒)

造酒圭吾
(昭和63年卒)

〒010-0905 秋田市保戸野中町1-12
TEL 018-862-4048
FAX 018-823-3001

秋田銀行

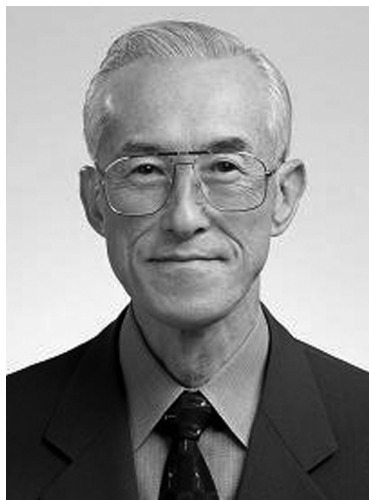
頭取
藤原清悦
(昭和37年卒)

秋高健児 群像 雑感

フィデアホールディングス 取締役会議長 北都銀行会長 町 田 泉 (昭和31年卒)

同窓会だより90号特集

昨年、フィデア総研 (北都銀行と荘内銀行の調査研究部門) 発行の



杯楽しみたい。

母校秋田高校には、大恩がある。第一に、私を始め兄弟四人全員、秋高で鍛え育てていただいた (睿昭和三十一年卒、侃三十六年卒、仁三十九年卒、義四十一年卒)。第二に、父が昭和十五年から昭和三十七年まで、なんと二十有余年教員としてお世話になった。第三は、私は在校中、気付いているだけでも二つの迷惑を母校にかけた。生徒会長を仰せつかったが、応援団に辛く当たった。在校中、秋高は連続二回甲子園出場を果たした。その功績ある野球部を応援する応援団に、「生徒を強制して応援に狩りたてるのは、まかりならん。」と冷たい仕打ちをした。佐藤照応援団長 (故人) に辞表を付きつけられたが、受取らなかった。二つ目は、全県高校英語弁論大会に出場させてもらった。指導に当られた最上勉 (英語担当、綽名はチャイナ) 先生に云われたが、「君より英語が出来る旭谷 (清治) 君を出せば、優勝間違いがないが、それでは面白くない。君の東北訛の英語を標準語にしてみたい。」が真相だったらしい。湯沢高校の女子生徒と同点になり、「レディ・ファースト」で準優勝に終わった。何とも面目ない次第であった。

「フューチャー・サイト (二〇二一年冬号)」で、秋高の大先輩である明石康元国連事務次長 (その後カンボジアと旧ユーゴスラビア担当国連事務総長特別代表を歴任) と対談する機会に恵まれた。冒頭、明石先輩から父の話を切り出され感激した。「お父さんに旧制中学で修身を習ったんです。非常に立派な先生で、戦争中の軍国主義の雰囲気になれずに、哲学的な講義をしてくれました。」、地下の父が驚喜する有難いお言葉であった。明石先輩の「私の履歴書 (日経新聞)」にも恩師の一人として名前を挙げていただいていた。父は最終大曲高校の校長で教員生活を終えた。生れ在所の大曲で掉尾を飾ることができた。

<p>おいさと安心安全な大地の恵みを皆様にお届けする</p> <p>秋田市中央卸売市場</p> <p>丸果秋田県青果株式会社</p> <p>代表取締役社長</p> <p>高橋 良治</p> <p>(昭和31年卒)</p> <p>〒010-0802 秋田市外旭川字待合28番地 TEL 018 (869) 5511 FAX 018 (869) 5513 URL http://www.maruka-akita.co.jp</p>	<p>寺田内科医院</p> <p>院長</p> <p>寺田 俊夫</p> <p>(昭和37年卒)</p> <p>〒010-0925 秋田市旭南一丁目1-6 TEL 018-862-4628 FAX 018-863-6809</p>	<p>工藤胃腸内科クリニック</p> <p>特別顧問</p> <p>工藤 進 英</p> <p>昭和大学医学部教授 (昭和41年卒)</p> <p>〒010-0001 秋田市中通一丁目3番5号秋田キャッスルホテル2階 TEL 018-825-9100 FAX 018-825-9101 http://www.kudo-clinic.com</p>
---	---	--

お客さまを知る。地域に伝える。

北都銀行

A MEMBER of FIDEA GROUP

取締役頭取

斉藤 永吉

(昭和44年卒)

さながら動物園のような

作家 西木正明 (昭和34年卒)

昭和三十一年四月、わたしは幸運にも秋田高校に入学を許され、仙北の山里を立出し、県都秋田市の中心部にある秋高の校門をくぐった。青雲の志を抱いての入学であったが、入学してほどなく、その志はいわく言いがたい驚嘆に変わった。

まず最初の驚きは、これが天下の秋高かという、校舎のたたずまいに対するものであった。当時の秋高は長野下新町の旧帝國陸軍練兵場跡であり、その校舎たるや、まさにこれ以上汚い建物はないといえるような代物であった。

数カ所にある入口には、いずれも『校舎内を下駄で歩くな。違反者は即裸足を命ずる』という趣旨の貼り紙があった。廊下を下駄や足駄で闊歩する者があるとをたたないことに對する警告であったが、その貼り紙の大半は、「裸足」の「足」にバツをつけて、「裸」にしてあった。次なる驚きは、先生方のあだ名というか、



ところが、一年の中間試験の結果を見て腰を抜かした。特に理数系が悪く、赤線なしし赤線すれすれの科目ばかりである。これに追い撃ちをかけたのが、教室内の席順だった。わたしは一年E組、すなわち理数系のクラスだったが、担任の今江先生がきわめて教育熱心な方で、わたしのような出来の悪い生徒を叱咤激励する意味もあったのだらう、中間試験の結果順に席を決めたのである。

「ボブさん」のような、意味不明のものもあったが、とにかくそれぞれの先生の特長を的確に捉えた命名に舌を巻いた。なによりも驚いたのは、周囲の秀才の氾濫についてであった。郷里の小中学校時代は、勉強などしなくても、そこそこの成績をおさめてきたので、秋高の同期生についても、なほのこともあるまいとタカをくくっていた。

優秀な者は後ろの席で、成績が良くない者ほど前の席に座らされた。秀才と劣等生が一目瞭然で、噂を聞きつけた他のクラスの者たちが、次々に見物にやってきた。きつかったのは、一学年十クラスのうち、二クラスしかなかった共学クラスからの見物人の視線にさらされたことである。あこがれのマドンナたちが、興味津々といった面持ちで覗きにくる。わたしのように限りなく最前列に近い位置に着席している者にとつては、文字通り針の筵で、穴があつたら入りたくなるような状況であった。

それに対する反発もあったのか、授業中の悪ふざけが多かつたのも、この組の特長だった。秋口になり、それなりに秋高生活にも慣れた頃のこと。英語の時間に音読を命じられたA君が、立ちあがってとうとうと読みはじめた。内容は有名な札幌農業学校、後の北大の先生だったクラーク博士の離別のシーンである。かの有名な一節、

「ドクター・クラーク・セツド・ボーイズ・ビ・アンピシヤス」を、A君は大音声で、「ドクター・クラーク・セツド・ボーイズ・ビ・○○チヨス！」とやったのだ。

若い英語の先生の顔がさつと青ざめ、そのまま教室から飛び出して、その時間はついに戻ってこなかった。突如発生した自習によるこんだわれわれは、A君に深く感謝した。しかしながら、そのまま何事もなくすむはずがない。放課後全員残され、教頭先生にこつてりと油を絞られた。説教しながらも、教頭先生が堪えきれずに、にやにや笑われたことを、昨日の出来事のように懐かしく思い出す。

豊口法律事務所

弁護士
豊口 祐一
(昭和34年卒)

〒010-0943
秋田市川尻御休町1番17号
TEL 018-864-6228
FAX 018-823-2576

創業明治11年
那波紙店
株式会社 那波伊四郎商店

社長 **那波 伊四郎**
(昭和34年卒)

専務 **那波 信太郎**
(平成3年卒)

秋田市大町四丁目3-35 (茶町通り)
TEL 018-823-4311

高木内科胃腸科医院

高木 紘一
(昭和34年卒)

〒011-0936
秋田市將軍野南四丁目6番20号
TEL 018-845-1118

山崎耳鼻咽喉科医院

院長
山崎 義春
(昭和34年卒)

秋田市中通 3-4-10
TEL 018-834-3010

真の復興は足元から

読売新聞 特別編集委員 橋本五郎 (昭和40年卒)

同窓会だより90号特集

東日本大震災の復興構想会議の委員になって、初会合から声を大にして言い続けてきたことがあります。一つは、この大震災が私たちに突きつけたものは何なのか、深く考えなければいけないということです。七か月以上経ってもなお四千人近い人の行方がわからないというのはどういうことなのか。海の瓦礫の下かもしれない。遠くアメリカ、カナダまで流されているのかもしれない。それにしても、先進的な文明国にあつて、人の命とは何なのか。人間の尊厳とは何なのか。頭を垂れながら考えざるを得ないので、十メートルの堤防を築いても津波を防げなかった。それでは十五メートルの堤防を築くのか。ある程度努力し、あとは逃げよう、というのが復興構想会議の提言の基本的な考え方です。大自然の脅威にはかわかない。「防災」は無理。たかだか「減災」しかできない。謙虚になろうということです。



原発とは、人類が生んだ最先端の技術を駆使してつくりあげた「文明の利器」のはずです。それが今や、巨大なりヴァイアサン（怪獣）のように私たちに対峙し、制御不能にしているのです。福島の人たちを「流浪の民」にしているのです。文明とは何なのかを考えざるを得ません。もう一つ考えるべきは、被災地の復興は日本全体、地方の復興につながるべきではないということ。田舎はどこも大変です。高齢化、過疎化、少子化、あらゆる問題が集約的に現れているところ。東北の被災地はその典型です。そこが襲われたら、被災地の復興は地方全体の復興のモデルにしなけれ

ばならないのです。そのためには、まずそこに住む人たちの町をどうするかを考えなければいけないのです。

わが母校、山本郡三種町の鯉川小学校は、生徒が十九人しかいなくなり、一昨年統合されました。廃校になった小学校を図書館にしたいと思いましたが、里山に桜の木を植え、ベンチを置いて、お年寄りのための花見の場にしようと思いました。私は本でそんな場をつくりたいと思いました。去年の十月二十九日、町長さんに二万冊の寄贈を申し出ました。翌十一月から大震災の前まで六回にわたって運び、今年の四月二十九日、「橋本五郎文庫」はオープンしました。文庫づくりのため、四十人のボランティアの人たちが手を挙げてくれました。九割が家庭の主婦です。県立図書館まで行って本の分類を勉強し、オープンにこぎつけてくれました。女性がつくるのです。お金がありませんから、手作りなのです。ソファは自分たちで持ち寄り、手作りのカバー

が掛けられ、椅子には手作りの座布団が敷いてあります。限りなく温かいのです。教養講座もできました。グラウンドゴルフ大会も始めました。体力教室も軌道に乗っています。今まで家に引っ込んでいたお年寄りが外に出てきたのです。だからといって、経済的な利益を生むわけではありません。でも、みんなが集まって話ができる場ができたのです。五郎文庫の一室で姑たちが嫁の悪口を言い合ってもいいのです。よく聞いてみると自分の嫁の方がよほどましではないのかと思ひ、家に帰って嫁にやさしくなる、ということがあったっていいと思うのです。大切なことはこの町に生まれ育ってよかったと思えることです。家庭の主婦たちでつくった図書館に幸あれ、と心から念じています。

秋田高校東京同窓会

会長 **橋本五郎** (昭和40年卒)

幹事長 **鎌田進** (昭和47年卒)

〒106-0032 東京都港区六本木5-16-5
インベリアル六本木1001 鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775 FAX 03-5545-0087
E-mail mail@shuko-ob.net

高井会計事務所

公認会計士 **高井宏司** (昭和40年卒)
税理士

〒010-0951
秋田市山王七丁目6番12号
TEL 018-823-3342

ガス・水道

ISO 9001 認証取得

清三屋施設工業株式会社

代表取締役 **高橋正男** (昭和40年卒)
代表取締役専務 **若狭均** (昭和44年卒)
取締役 **高橋洋平** (平成7年卒)

秋田市新屋天秤野5-18
TEL 018-864-9311

気付いた時が修理とき!

住まいの増改築なら

(株) トータルパー

代表取締役 **高橋基** (昭和40年卒)

秋田市新屋天秤野4-8
TEL 018-863-0438

AFM エフエム秋田

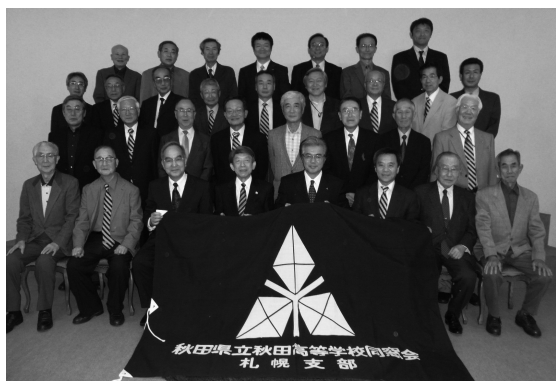
代表取締役社長 **高田二郎** (昭和40年卒)

〒010-0973
秋田市八橋本町3-7-10
TEL 018-824-1155
FAX 018-823-7725

故郷の酒、料理楽しむ 40〜50歳代参加を募る

札幌支部総会

去る十月十五日(土)、ホテルノースシティーにおいて札幌支部総会が開催された。今年高橋学校長、寺田事務局長を来賓としてお迎えし、総勢三十二名であった。参加者の楽しいスピーチにより会は終始和やかな雰囲気となり、恒例の校歌斉唱と母校へのエールで幕を閉じた。その後は「酒蔵秋田」へと場所を移し、故郷の酒と料理を楽しんだ。ここ数年、当支部総会は四十歳



代後半から五十歳代前半の方々の出席がありません。皆様方、次回はぜひご出席をお願いいたします。

204の会は 意気軒昂は 18名が参加

二〇一一年九月一日、毎年開校記念日に合わせて実施している同期の集い、今年も久しぶりに東京から来秋した一人を交えて総勢十八名の懐かしい顔ぶれで盛大に開催。歌ありハーモニカ演奏ありの楽



六月七日(火)「土風炉」神田店において、二十三名出席し開催された。冒頭この一年間に逝去された三名へ黙祷の後、幹事長宗方素君の挨拶、東日本大震災被災地(仙台)から参加の小川晶君による状況紹介があり、懇談に入った。卒業後六十年に当たる今年、相変わらず元気な参加者は、大震災を間近に経験した級友の話題や、往時の故郷の話題に花が咲き、時間の経過も忘

れて(お酒のおかわりは忘れずに)歓談を楽しんだ。最後に校歌、校友会歌を斉唱し、来年の再会を約して散会した。

1. 会員出欠状況
- 会員六十九名へ通知し、出席二十三名欠席通知三十四名、未回答十二名
2. 出席者(敬称略)
- 五十嵐泰弘・伊藤 隆
 - 伊藤 洋一・今井 正也
 - 今村 久弥・小川 晶
 - 小熊 巖・加賀屋光雄
 - 斎藤 康・佐々木研吾
 - 佐々木清水・佐藤 二郎
 - 東海林岑雄・辻原謙三郎
 - 長門 幸雄・那波 直司
 - 奈良 毅・成田 満義
 - 野尻 正庸・日野 幹雄
 - 宗方 素・山下 直樹
 - 横内 正純



体力的な衰えは争われませんが、気持ちだけは往時のまま、飲むほど酔うほどに話が弾み夜の耽るのも忘れ昔話に熱中し盛り上がったところで締め乾杯、一年後の再会を約して解散しました。(野手 記)

寺田光和先生が 長寿の秘訣話す

昭和25年卒同期会

昭和二十五年卒「第三十五回同期会の集い」が九月十七日、秋田市の協働大町ビルで開かれた。

会には、恩師寺田光和先生をお迎えし、同期三十九名、賛助三名、同伴一名の四十四名が参集した。

全員で校歌斉唱、同期会歌合唱のあと、物故者への黙祷、間もなく満百歳になる寺田先生が、長寿の秘訣として「毎日乾布摩擦をすること」と話して下さいました。

このあと祝宴に移り、午後八時過ぎに来年の再会を約し無事終了した。

今回は、出欠のはがきを約百四十通発送、そのうち無回答が二十五通あった。メッセージは、消息判明の一助になるので、次回は返送の協力をお願いします。

つどい

喜寿祝う会 101名が集う

秋高八十期会



秋高八十期会(昭和29年卒)の平成二十三年度総会並びに喜寿を祝う会は、五月二十日(金)、秋田キャッスルホテルで開催された。当初、東日本大

震災の影響で参加者の減少が懸念されたが、予告に(今後このような大きな会合はこれが最後になることが予想され)とあったことから、北海道から広島までなんと百一名(うち女子十一名)という記録的多数が参集した。

当日は、草薨稲太郎代表幹事の挨拶に続き、恩師の山下三喜男、畑澤潤一、山谷浩二の各先生からお祝いのスピーチを頂いた。更に、同日、同じホテルで同窓会理事会があり、豊口祐一会長がぜひ一言をと来臨され、「皆さんは平成七年から昨年まで十六年間、同窓会費納入率トップで、会として心からお礼申し上げます。」と丁寧な挨拶を述べられた。

大里祐一君(県議会議長)の音頭で乾杯、開宴となった。アトラクションの西馬音内盆踊りも始まり、会場は一挙に盛り上がり酒を酌み交わし、歓談が尽きなかった。私どもは、駅前校舎に男女共学第一期生として入学し、三年時に創立八十周年記念、戦後初十六年ぶり甲子園出場、そして秋田南高校から秋田高に変わった最初の卒業生であった。こうした校史の節目に出会っ

たことが結束を強めているのかもしれない。名残を惜しむ



時を忘れて 会話が弾む

三三三会 昭和33年卒同期会

多事多難な「兎年」ですが、九月九日(金)ホテルメトロポリタン秋田で、畑澤潤一先生をお迎えし、三十七名(県外から六名)の同期と共に今年の「例会」を開催。

つつ最後は校歌、そして今回は校友会歌まで全員で歌い上げ、めでたく会を終了した。(森谷裕二 記)

五十二年ぶりに帰郷された酒出弘二君の『大阪から秋田市に帰ってきました―竜宮城から帰った浦島太郎の報告―』講演からスタート。永年工業教育に携わってきた思いと、ものづくり教育の大切さを訴えられ、おおいに参考となりました。

古田重明幹事の司会で進行。物故者並びに東日本大震災による多くの被災者に黙祷。校歌斉唱(五番まで)。この一年間の会務報告、同窓会報告、

収支報告が行われ、承認。恩師から温かい励ましのご挨拶を頂き、感銘。東京支部代表熊谷光太郎君の挨拶で、今年

の東京支部の集いは、十一月十一日開催を発表。関西支部代表金内信君の乾杯で懇親へ。今年はいよいよ秋高に出席の方も目立ち、再会できたことの喜びで、時を忘れ会話が弾んだ。銘酒と仲良しとなった方も有り、楽しいひとときを過ごすことができました。

校友会歌を声高らかに歌い、再会を約して、散会した。多くの元気と勇気を頂くことができました。次回、もっと多くの方々と再会出来ることを願いたい。(佐藤満雄 記)

飯田川支部総会

10月8日 八郎潟ハイツ



- | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|------------|-------|-------|-------|-------|------|
| 伊藤 暢 | 淡路 浩昭 | 渡辺 慶満 | 伊藤 康 | 伊藤 和人 | 神田 仁 | 伊藤 敏和 | 新野 建臣 | 渡辺 晋二 | 伊藤 巧 |
| 門間 均 | 石川 養正 | 鏡 美津雄 | 小玉正次郎 | 事務局長 寺田 和夫 | 門間久一郎 | 三浦浩一郎 | 加藤 順三 | | |

詩吟や競演 今年も元氣

「秋高32会」総会

平成二十三年度「32会」総会が九月九日(金)にメトロポリタンホテル秋田において秋高健児三十三名の出席を得て開催されました。東日本大震災被災者並びに物故者への黙禱を行い、武藤会長の挨拶、武田さん(愛知県から)の乾杯で宴は始まりました。

クラス代表スピーチが始まる時はかなり、宴たけなわで皆さん高揚し、詩吟に代わっていました。さらにお二人の競演も行われ最高潮となりました。



した。
昨年より参加人員は少なくなかったのですが、年々元気だけは旺盛となるような気がします。やがて佐々木信吾副会長の中締めとなり、全員に



48名が参加 話題は震災

昭和49年卒同期会

二年半毎に開催している卒同期会は、八月十四日、秋田キャッスルホテルに、恩師の三船新次、藤田幸雄、小野寺清の各先生を含め四十八名

よる校歌の大合唱そして来年の再会を約し、(二次会へ)(何と十八名の参加)まだまだ元気溼刺の七十三歳オールドボーイ諸兄でありました。
(國安志郎 記)

在校生時代の 運動会も上映

昭和52年卒同期会

去る八月十四日パーティギャラリーイヤタカにおいて、昭和五十二年卒の同期会が開催されました。平成五年に第一回を開催してから三年ごとに催してきた同期会も今回で七回目、お馴染みの顔あり初めて顔ありで五十六名の仲間が集いました。

当時の運動会の様子を撮影した8mフィルムの上映もあり、自分たちの若かりし姿を発見しては大いに盛り上がり、時の経つのも忘れて話は続きました。最後は「天上は

談した。
今回は東日本大震災に関する話題が多く、震災があったことで家族・仲間、地域の絆が深まったとの声も。欠席者からは同期生の安否を心配するメッセージも多かった。
次回また元気で再会できることを祈念し、佐藤光二の締めでお開き。話が尽きないよう、多くが二次会三次会へ流れていったようだ。
(佐藤悦紹 記)



るかに」を歌い、三年後の再会を約束して散会となりました。
(加藤史子 記)

一般土木・葺土工事・仮設資材一式
一般貨物自動車運送事業

三栄建設
株式会社

代表取締役
佐藤 充夫
(昭和42年卒)

〒010-1423
秋田市仁井田字中谷地130番地1
TEL 018-839-3095(代)
FAX 018-839-3866

ア東部ガス・ラザ
ホームテック株式会社
FROM HEART FROM TECHNOLOGY Home-Tec

代表取締役
進藤 重明
(昭和42年卒)

〒010-0021
秋田市 檜山登町 6-15
TEL 018-835-2211
FAX 018-835-5950

やさしさに逢う 秋田の宿
秋田温泉

手塚 鋼

代表取締役
手塚 鋼
(昭和42年卒)

TEL 018-833-7171

フレイフレイ陸上競技部
こやなぎ 歯科

歯学博士
小柳 輝 芳
(昭和32年卒)

東京都杉並区 西荻北2-9-15-117
TEL 03-3394-1133
FAX 03-3394-1133

つどい



62期までの 若菜会

若菜会

平成二十三年十月十六日、秋田キャッスルホテルにおいて若菜会が開催され、遠くは高知市からの参加者を含め、一期（S29年卒）から十七期までの六十二名の出席があり

幹事輪番制で 定例会を運営

42会同期会

毎年九月の第一土曜日を定例としている四二会は九月三日、秋田市大町の協働大町ビルで開催された。今年から二クラスの幹事輪番制で定例会の運営を担当することに

ました。この日のために制作したDVDが放映され、旧校舍や先輩たちの若かりし頃の懐かしい映像に喝さいが上がりました。また、高橋貢現校長の映像による挨拶や現況報告等で女子の比率が半分近くになっていることを知り、隔世の感がありました。会場では在校当時の思い出話や近況報告に花が咲き、楽しいひと時を過ごしました。次回は二年後に四十二年卒の幹事で開催される予定です。次回も健康で再会することを約束し、思い出を胸に散会しました。（41年卒幹事 小林淑子 記）



声が一瞬、飛び、どつどつと沸いた。が、わが身に、つまたされ、たか急に皆神妙な面持ちに変わり、ご覧の写真と

なり、最初のクラス幹事に当たった櫻谷則夫君の司会で開会。七十七人の出席者全員でまず記念の集合写真に収まった。いつものように安宅幸一君が愛機の一眼レフカメラを三脚に据え付け、フレームを調整していると、突然整列のどこから「来年もまた、記念写真を撮れるように、みんな元気でいであれや」と大きな声が一瞬、飛び、どつどつと沸いた。が、わが身に、つまたされ、たか急に皆神妙な面持ちに変わり、ご覧の写真と

「つどい」の編集について (お知らせとお願い)

- 一、「つどい」の記事は写真を中心に、説明文はなるべく短くして下さい。
- 二、説明文や出席者名簿などの取り扱いは、編集委員会（広報委員）にお任せ下さい。
- 三、締切に間に合った原稿はできるだけ全部掲載するように努めますが、「つどい」の寄稿は毎回数が多く、編集の都合上次回に回すこともありえます。
- 四、発行日の変更に伴い、春季号の締切は三月下旬、秋季号は八月末が締め切りです。

友との談義はいつ果てるともなく続いたが、最後は校歌の大合唱。元応援団長池田和男君の現役当時を彷彿とさせる力強い両腕の振りに合わせ、「天上はるかに」を全員で声高らかに歌い、「フレール、シユウコー」をシユプレヒコールして散会した。（石井 仁 記）

深秋随想

劇団を青森市で旗揚げしたのは〇五年秋である。劇団名の「渡辺」は婿養子であった亡父の旧姓、「源四郎」は亡祖父の名前である。演劇に関わって二十余年、初めて持つ自分の城には父祖の名を借りるべきだと思った。そして、「俺はアーティストだから馬鹿はワカンなくていい」と居直る態度から距離をとりたかった。いらっしやいませ。

まいどあり。お客様に芝居をお出しする商店でありたい。「渡辺源四郎商店（略称…なべげん）」なる劇団名はこのようにして決まったのである。立ち上げ時から東京に制作スタッフを置いた。基本的に全ての公演を東京でも行うためである。表現者は全国に散らばっているが批評家は極端に東京に集中している。全国的に評価を得て全国にそして世界に活動の場を広げるためにはまず東京で評価される必要があるのである。

とはいえ問題は地元青森での拠点作り。青森で芝居を作るメリットを生かすため、専用の稽古場、できれば公演も打てるアトリエを持ちたいと

考えた。開店準備公演の準備に明け暮れていた〇五年秋、青森市本町の空きビルと出会い、〇六年五月、セゾン文化財団の助成の支援を受けた劇場拠点創造プロジェクトを始動させた。十月のこけら落とし公演の舞台美術を空間に合わせ、稽古から上演まで一挙に行う。それを一般公募の市民による

地方で演劇をするところについて

—劇団「渡辺源四郎商店」のこれまでとこれから

畑 澤 聖 悟

(昭和58年卒)

劇作家・演出家



ワークショップでやってしまおう試みである。自分たちで作り上げた空間で芝居を練り上げ、公演を打つ。実に得難い経験を多くの人々と共有することが出来た。モノツクリにとって本当の豊かさとはこれだ！と、胸を張って主張する。しかし渾身の力作であるわが城はオトナの事情によりこけら落とし公演から実働一年で立ち退きを余儀なくされて

しまう。再び空き店舗や空き倉庫物色の日々が始まり、陸奥湾に面した二階建ての廃レ스토랑に巡り会った。せつせと張った壁や床をひっぺがし、山のような荷物や機材とともに引越し。二つめのアトリエを作り上げた。オーナーの経営する青森グリーンパークホテルとのネーミングライツ契約に基づき「アトリ

エ・グリーンパーク」と名付けた。日本初の小劇場ネーミングライツである。

〇八年から始めた中学生演劇体験ワークショップは毎年夏に行われ、もう四年目になる。演劇未経験の中学生を集め、七日間で基礎稽古から本番までを経験させるプログラム。なべげんとアトリエがあることを地域住民の皆さんに誇りに思っ貰いたい。その

ためには演劇の喜びを体験して貰うことで貢献しようと考えたのである。今後は「高齢者ワークショップ」「主婦ワークショップ」と間口を広げていき、ゆくゆくは演劇による世代間交流ができないか。これは地域の演劇文化を振興するだけでなく、青森で演劇活動するわれわれにとって切実な「顧客作り」の作業でもある。観劇と宿泊をセットにしたアイディアも生まれている。

JALとホテルと提携し、首都圏のお客さんを青森に呼ぶ企画。あえて青森のみで公演した「修学旅行」では、東京、埼玉、神奈川、栃木など県外からの利用者に数多く足を運んでいただいた。芝居を観るのは東京で、という固定観念を少しずつ打破していきたい。我々と同じように地方で自分のアトリエを作って頑張っている地方のカンパニーと東京を経由せずに地方と地方を結んだネットワークを構築する作業も進めていきたい。すでに帯広の「茶館工房」との交流がスタートしている。

何はともあれ大事なのは続けていくことだ。地域に貢献し、地域に愛され、いい観客を作り、そしていい芝居を作り続けていく。これが地方で演劇活動が続ける者の使命である。

大淵歯科醫院

大 淵 義 孝
(昭和42年卒)

秋 田 市 中 通 4-7-35
秋 田 市 民 市 場 2 F (北西角)

秋山牧税理士事務所

所長
秋 山 牧
(昭和42年卒)

秋 田 市 東 通 仲 町 15-5
T E L 0 1 8 - 8 3 7 - 2 2 8 1

ボールペンから事務機まで

代表取締役
金 子 真 悟
(昭和42年卒)

本 社 / 秋 田 市 山 王 五 丁 目 12-21
T E L 8 6 2 - 5 3 7 1 代
大 町 店 / 秋 田 市 大 町 三 丁 目 4-45
T E L 8 6 3 - 9 0 0 9

ある。東京でなく地方を活動の場に選んだ以上、単に芝居をやるだけでは足りないと考ええる。

我が劇団はここ数年、おかげさまで郷里秋田でも毎年公演させていただいている。今後とも渡辺源四郎商店をどうぞ御鼻屑にお願いいたします。

世紀またぐOB戦

秋高、宇治山田高に快勝

第1回中学
野球大会での
準々決勝再現

母校野球部の歴史に燦然とその名を刻む秋田中学当時の第一回全国中等学校優勝野球大会準優勝。母校は決勝で京都二中（現鳥羽高）に惜しくも1対2で敗れたが、高校球児の晴れ舞台夏の全国高校野球大会は一九一五年（大正4年）に開催されたその第一回大会を嚆矢とする。あれから一世紀近い時を隔てて、同大会の準々決勝の熱戦が九月十日、両校OBたちによって母校グラウンドを舞台に再現された。

対戦したのは三重県立宇治山田高（旧制山田中）と秋田高（旧制秋田中）。両者は九十六年前に大阪・豊中球場で開かれた第一回大会の準々決勝で顔を合わせ、秋田中が9-1で山田中を下している。

準々決勝の再現話を持ち上がったいきさつはこうだ。母校野球部OB会の猿田五知夫会長（昭51年卒）によると、夏の全国高校野球選手権大会が百周年を迎える二〇一五年に第一回大会の出場校十校によるOB交流戦を開こうという構想が広島国泰寺高（旧制広島中）を中心に浮上し、これを伝え聞いた宇治山田高から準々決勝の対戦相手秋田高に実現への協力要請とともに、その「前哨戦」として交流試合の呼



びかけがあったという。宇治山田高の熱意を快く引き受けた秋田高矢留倶楽部は三十〜四十歳代のOBを中心に

にチームを編成、九月十日の試合当日は母校グラウンドで



石井浩郎参院議員も4番1塁で先発出場、攻守に活躍した

軽く練習に汗を流した後、空路秋田入りした宇治山田高OBチームの一行二十六人を大きな拍手で出迎えた。宇治山田高野球部OB会の田畑吉春会長（昭58年卒）は「九十六年前は大敗しているのが今回は是非勝ちたいが、選手は四十歳代を中心に十六人しかないのですがをしないように頑張ります」と笑顔の中にも静かな闘志をのぞかせると、対する母校OBチームを率いる赤沼新二監督（昭40年卒）は「長い時間が過ぎてそれぞれ学校の歴史も野球部の歴史も変わり、交流試合でそれがどう出るか楽しみ。秋高魂で一丸となつて勝ちにいく」ときっぱり。

試合に先立って両チームそろって記念写真に収まり、午

後二時、第一回大会に出場した秋田中信太貞一塁手の息子聡一さん（昭27年卒）の始球式で試合が始まった。

試合は秋田高山岡樹宗（平18年卒）、宇治山田高上部真嗣（平4年卒）両投手の投げ合いが始まり、一回こそ両チームとも凡退したものの、二回には早くも秋高打線が爆発打者一巡の猛攻で4点を先制した。これに対して宇治山田高は三回に1点を返したものの、その裏秋高打線に再び4点を許す苦しい展開となった。宇治山田は最終回まで必死に追撃したが、秋高打線の猛打は止まらず、結局四人の投手からあわせて二十本のヒットを奪った秋田高OBチームが14対4で快勝、宇治山田高の雪辱はならなかった。

当日は途中から雨が降り出すあいにくの天候だったが、東京矢留会の熊谷光太郎さん（昭33年卒）をはじめたくさんの野球部OBも駆け付けてベンチから盛んに声援を送ったほか、ネット裏には五十人ほどの高校野球ファンが詰めかけ、土手に腰かけたり立っただけで熱心に戦況を見守っていた。

試合後、両チームは夜の懇親会でさらに交流を深め再会を誓いあった。

菊地司法書士事務所

司法書士

菊地 喜久雄

(昭和52年卒)

〒010-0951

秋田市山王六丁目1-1(山王ビル)
TEL 018-823-9381
FAX 018-823-3209
superman-kikuchi@nifty.com
http://www.kikuchi-shiho.jp

設計・監理

株式会社



渡辺佐文建築設計事務所

代表取締役

池田 匠

(昭和52年卒)

〒010-0954

秋田市山王沼田町6番8号
TEL 018-863-8431
FAX 018-863-8432

おおすみ歯科医院

院長

佐々木 嘉一

(昭和52年卒)

秋田市大住三丁目3番53号
秋田銀行大住支店隣
TEL 018-836-5222
http://www.oosumi-shika.com

生鮮食品から家電品まで
毎日良い品をより安く!

ドジャース

代表取締役

挽野 泰次

(昭和42年卒)

短歌

三陸ボランテイヤ行

小林 栄一 (昭和29年卒)
(千葉県方象短歌会同人)

永らえし現世うつよに居て惨事見き被災の街に春の雪降る
 朝まだきみちのくの地に到りなば樹林の若葉が目を驚かす
 譬えなき狼藉者と化せる海なれ汝の所業に嘆き尽くまじ
 豊かなる幸をあまねく恵み給う海なれよ汝の一閃の狂気
 見はるかす一本松の傾むきて松原失せし海の辺に立つ (高田松原)
 高みより大地震なの地を見降しつ八重のさくらは繚乱と咲く
 母求めひとり泣き入る幼児あり慰さむ吾に憂愁うれまさされる
 春風にたゆとう水面見詰めたり北の大事を他所事として

平成23年 会務事項報告

- 〔四月〕
 - 3日 追分支部新入生歓迎会
 - 13日 第一回財政委員会
 - 19日 会計監査
 - 22日 にかほ支部総会
 - 26日 第一回運営委員会
- 〔五月〕
 - 20日 第一回理事会
 - 23日 同窓会だより第89号発行
 - 〔六月〕
 - 4日 東京同窓会総会
 - 25日 同窓会総会
 - 〔七月〕
 - 2日 秋高祭 (〜3日)

寄贈図書

- 「わが生涯の記」 小玉孝次郎 (故人) (子息・康延氏寄贈)
- 「海の揺籃」 (歌集) 加賀谷 実 (昭42卒)
- 「生涯青春」 「大根踊り人生論」 「強く美しく生きるには」 以上三冊 加藤日出男 (昭21卒)
- 「美しき国、そして麗しき日本人」 (上・下) 今野陽三 (昭20卒)
- 「あれから四十年 ああの頃は若かった」 秋田高校39会関東支部会
- 「秋高青春史 伝統は生きている」 五冊 サンケイ新聞秋田支局編
- 「3Gかわらばん」 秋高80期3年G組
- 「獨楽庵切抜帳」 (全四編) 富野巳代治 (昭7卒)
- 「秋田高校科学部誌」 (十四冊) 小野寺 清 (旧職員)

平成23年度 年会費納入のお願い

会員の皆様には常日頃、秋田高校同窓会活動へご理解とご協力をいただき、心から感謝しております。ありがとうございます。

同窓会は皆様からの会費によって維持運営されております。納入かたよろしくお願い申し上げます。

コンビニでも支払いできます

1. 年会費 2,000円 (単年度分)
過年度分は請求しません。
2. 高校卒業後4年間は免除されます。
3. 同封の「払込取扱票」をお使いください。
4. 郵便局の窓口かコンビニのレジを通してお支払いください。

HP委員会からのお知らせ

1. 情報共有スペースを作りませんか?
(年次・支部・部活動等)
 2. 各種投稿を募集しています。
(『同窓生の今』、『同窓探訪』、『イベント情報』等)
- 詳しくは
URL <http://www.akitahs-doso.jp/>

2日 小柳力彫刻展 (〜8月31日)

16日 大曲支部総会

〔九月〕

12日 第一回企画委員会

14日 第一回広報委員会

16日 第二回財政委員会

20日 第一回名簿委員会

22日 第一回HP委員会

〔十月〕

5日 第二回企画委員会

7日 第二回理事会

8日 飯田川支部総会

15日 札幌支部総会

16日 若菜会

20日 第二回当番年次会議

27日 第二回HP委員会

26日 第二回運営委員会
 28日 昭和21年3月修了生卒業生
 昭和21・22卒記念同期会




米谷 耳鼻咽喉科 医院

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
米谷 博秀
Tel.880-5355

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30-12:30	○	○	○	○	○	○	○
午後 2:30-6:00	○	○	○	○	○	○	○

新道 自衛隊入口
カトリック教会 中央通 当院



(財)日本医療機能 評価機構認定病院

秋田緑ヶ丘病院

○心療内科 ○精神科
○内科 ○麻酔科

院長 後藤 時子 (昭和52年卒)



株式会社 サノ

代表取締役 佐野 公彦 (昭和52年卒)

秋田市鉦町3-4-2 TEL 018-862-6644



株式会社 IAオフィス

保険代理店名 三幸保険事務所

岡田 仁志 (昭和52年卒)

〒010-0001 秋田市中通3-3-10 秋田スカイプラザ2-C
 TEL 0188-836-1113 FAX 018-836-7577
 携帯電話: 090-2992-7729
 E-Mail: ia-office@oboe.ocn.ne.jp

昭和21年3月修了者たちの 錦秋の卒業式

教頭立石隆博

澄みきった青空にナナカマドの赤い実が映える九月二十八日、本校体育館において、昭和二十一年三月修了者の卒業式が挙行されました。

昭和二十一年当時は終戦直後の混乱期で、校舎は進駐軍に接収された後に失火で焼失、授業は学年ごとに市内各小学



校などに分散して行われていました。校舎も無くなり、昭和二十一年三月に行われるべき卒業式も行われず、何一つ証の無いまま秋田中学での学業を終えた時代でした。

出席された十一名の方々は、傘寿を超えた人生の大先輩であり、過酷な時代でも決して希望を失わず、困難を乗り越えて生き、

二十世紀後半の日本の発展に大きく貢献してきました。その姿に接することは、私たちがへの大きな激励となりました。また現役の秋高生にとっては、社会や歴史について深く考え、人間が生きることの意義を問う機会となり、大きな勇気を与えられたものと思います。

この式典の準備は一部を在校の生徒が行い、卒業生が退場する途中では、女子生徒から卒業生へ一

輪花の贈呈という場面もありました。六十五年の年代を超えたふれあいの場面は大変ほえましいものでした。

この卒業式において、私は卒業生のお名前を読み上げるという名誉ある役割を与えられ、身の引き締まる思いでした。

卒業証書

高橋昌一

右は本校において昭和二十一年三月までの全課程を修了したことを証する

平成二十二年九月十八日
秋田県職業能力開発高橋真

34名に卒業証書贈る

出席者名簿

- 丸孝章 一
- 忠信 昌操
- 木藤野橋上
- 佐々菅高最
- 一 郎 暹 一 郎 雄 明
- 喜 有 章 敏
- 藤藤石桑井田
- 加佐澤高照和

欠席者名簿

- 政男 一 政男宏貢弘豊治三
- 為日孝廣邦 與 良昭
- 淵藤田嶋玉田橋内屋原田
- 大加鎌九兒杉高竹那藤吉
- 雄雄衛治一作昌強雄肇雄夫
- 恒時龍祥榮尚 美智 繁睦
- 田谷田口坂藤木山村本浦辺
- 太加桂川小佐鈴高田藤三渡

た。式の後行われた昭和二十一年・二十二年同期会では、卒業生の一層お元気な姿に触れることができました。皆様の人生に敬意を表し、今後いつまでもご壮健でいられることを願うとともに、この式に参加したすべての人の心が、この日の青空のごとく曇りのない晴れやかなものになったことと確信しています。



秋田菓子宗家
かおる堂
http://www.kaorudo.jp/
早稲田大学人間科学学術院
助教 **藤井 靖** (平成8年度卒)
秋田大学医学部整形外科
医師 **藤井 昌** (平成13年度卒)


石 黒 寿佐夫 (昭和45年卒)
石 黒 佐太朗 (平成9年卒)

武内印刷株式会社
代表取締役社長 **武内 孝文** (昭和58年卒)
取締役東京営業所長 **武内 寿文** (昭和62年卒)
取締役営業部長 **武内 伸文** (平成2年卒)
本社/秋田市川元松丘町4-59
TEL 018-862-8754 FAX 018-863-1066

秋田県職業能力開発協会
秋田県職業能力開発審議会
会長 **高橋昌一** (昭和21年卒)

全国高校総体

☆卓球部

男子学校対抗 1回戦敗退
 男子ダブルス 1回戦敗退
 加藤祐也・土田善悠 1回戦敗退

男子シングルス 2回戦進出
 土田善悠

☆柔道部

男子個人戦 2回戦進出
 菅原将也
 81kg級 2回戦進出
 三戸雄生

☆ボート部

男子シングルスカル 2回戦進出
 鎌田祐磨 敗者復活戦6位
 男子ダブルスカル 準々決勝5位
 後藤拓・伊藤拓

インターハイの会場は、今までに経験したことのないような緊張感に包まれていました。そのため試合前は少なからず萎縮していたような気がしますが、こんな時こそいつも通りにやることをチームで意識して臨みました。お互いに声を掛け合い、一点ごとに喜び合い、チーム一丸となって最後まで相

☆剣道部

男子個人戦 2回戦進出
 佐藤広将

☆バドミントン部

男子学校対抗 1回戦敗退

全国大会出場	
動 部	
バドミントン部 ■ (男子団体)	渡部 孝太 甲谷 望・高橋 廉・小玉 祐矢 小玉 直亮 伊藤 裕一郎・水ノ江 慎兵 甲谷 望 高橋 廉
ボート部 ■ (男子ダブルス) (男子シングルスカル)	後藤 拓 伊藤 拓 松野 直人
柔 道 部 ■ (男子73kg級) (男子81kg級)	菅原 将也 祐廣 将也 三戸 雄生 広 元輝
剣 道 部 ■ (男子個人)	佐藤 広将
少将特報部	(女子単独演武) 熊谷 美有紀
化 部	
放送委員会 ■ (朗読部門)	久米 真梨子・松尾 留花
■ (アナウンス部門)	長谷川 早紀
■ (ラジオコメント部門)	「校歌の偉人 信淵を追って」

インターハイに27年ぶりに出場

バドミントン部 渡部 孝太

手に立ち向かって戦いました。結果は初戦で茨城県代表の常総学院に敗れてしまいました。これまでの活動の総決算として、貴重な経験を積むことができました。後輩たちにはこの経験をこれからに生かしてもらいたいと思います。多くの方々のご声援やご支援に感謝いたします。

男子ダブルス 甲谷望・高橋廉

男子シングルス 2回戦進出

甲谷 望 3回戦進出

☆陸上競技部

男子

200M

予選敗退

400Mリレー 大久保・青木

陸上競技のインターハイは、岩手県北上市で開催されました。初参加の上、自分より遥かに高く跳ぶ人が多くいて、不安だったのを覚えています。大会中は天候に恵まれ、いつも以上に体が動きました。そのいい流れを試合に生かすことが出来、自己ベストの2m04cmで5位入賞することが出来ました。

ベスト尽したインターハイ

陸上競技部 二年 長谷川裕貴

今回、結果を出すことが出来たのは、チームメイトや御指導してくださった先生方の支えがあったからだと思います。これからも周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、頑張りたいと思います。

僕たち卓球部は、青森市の青い森アリーナで行われたインターハイに出場しました。団体戦の抽選は、開会式前日に会場のメインアリーナで行われ、その結果、第一シードの青森山田高校と一回戦で当たることになってしまいました。しかし、みんなで「一矢を報いてやろう。」と話し合い、気合を入れて勝負に臨みました。結果は0-3でしたが、技術でははるかに上の選手た

強豪を相手に一矢を報いた

卓球部主将 加藤 祐也

ちに対して相当に食い下がり、ノータッチエースも何本か決め、まさに決意通り一矢を報いることができました。と思います。また、個人戦でも、団体決勝まで進出した山口県の野田学園のダブルスパアとのフルセットでの惜敗や、東京第一代表

☆水泳部

女子200M個人メドレー 鹿糠志帆 予選5位
 女子400M個人メドレー 鹿糠志帆 予選4位

女子

走高跳 佐藤楓香 予選敗退

棒高跳 小松田一穂 予選敗退

走高跳 長谷川裕貴 5位入賞

江口・岩川 準決勝進出

☆全日本一輪車競技大会

グループ競技部門 総合優勝 佐藤春佳

の実践学園の主将とのシングルスでフルセットの大激戦の末の勝利など、僕らのチームは大事な本番で力を振り絞って戦うことができ、本当に満足しました。僕たちは、この貴重な経験を今後の糧にしていきたいと思っています。最後に、応援に来てくださった諸先輩や保護者の方々、そして先生方、これまでのお力添え本当にありがとうございました。

事務局だより

気がつけば初冬を迎えてお
ります。今年も三月の大震災
以来、随分といろいろな出来

事がありました。鴨長明なら
ずとも、この世は実に無常と
いうことをこれほど実感した
年はなかったのではないでし
ょうか。▼今回初めて物故会

員のご連絡が百名を超えまし
た。年次名簿委員やご家族の
方々からきちんとご報告いた
だいていることは大変ありが
たいことですが、入会者が少

子化の影響で減っている一方
で高齢者を中心に物故会員が
増えていることは寂しいこと
です。▼昭和二十一年三月修
了生の卒業証書授与式は明る

いニュースでした。式後の祝
賀会に事務局長として出席し
ました。歌あり踊りありと大
変なお元氣ぶり。伝え聞きま
すに三次会まであったとのこ
と。高齢社会秋田の未来、こ
こにありと感じた次第です。
▼大樹秋高も二年後の平成二
十五年九月一日をもって、創
立百四十周年を迎えます。皆
様には秋高をして同窓会がこ
れから更に輝き続けるために、
一層のご支援ご協力いただき
ことをお願いしまして、事務
局からのご挨拶とさせていただきます。
▼最後に「だより」も
創刊以来九十号となりました。
記念号と致しましたが、如何
でしたでしょうか。お気づき
の点などございましたら、事
務局へご連絡下さい。

哀悼

失礼ながら敬称
(は省略させていただきます)
ただきました

謹んでご冥福を

お祈り申し上げます。

Table with columns for years (平成21, 22, 23) and months (1-12), listing names and dates of passing.

平成23年度広報委員

- List of committee members including 委員長 高島 清子, 副委員長 大和 宇一, and various 委員 members.